

2 新因幡ライン沿線の景観形成の方針

(1) 新因幡ライン沿線の景観特性

新因幡ライン沿線の景観形成の方針を考える上で、周辺地域の景観特性を「自然・地形」「歴史・文化」「生活・交通」「産業」の4つの視点から整理した。

① 自然・地形

因幡地方は、南に三室山(1,358m)、那岐山(1,255m)等を中心に標高1,000m級の峰々が連なり、東には扇ノ山(1,315m)、氷ノ山(1,510m)の高峰が屏風のようにそびえ、これらからなる「氷ノ山・後山・那岐山国定公園」の四季折々の美しい渓谷景観が、この地域の特色として挙げられる。

これらの山々に端を発する千代川水系の河川が、永い年月をかけて、地形を馬蹄型に浸食し、下流に若桜町、八頭町の盆地、郡家平野や鳥取平野を形成している。

また、これらの山々が冬季の季節風の障壁となり、豪雪、低温多雨の気候をもたらしている。

千代川水系最大の支流である八東川は、戸倉峠西側に端を発し、氷ノ山南西麓を西流し、若桜町、八頭町の中心部を経て千代川に注ぐ。河川浸食による峡谷地形や河岸段丘を形成し、段丘面では耕作地が広がる。下流部ほど、清流、水田、背後の山々が一体となり、里山の風景を眺望することができる。八頭町徳丸では、溶岩が弧を描くように岩となって形成された玄武岩の自然滝が「徳丸ドンド」と呼ばれ親しまれている。

国道29号は、これらの風景の中を、戸倉峠から八頭町西御門まで、八東川で形成された若桜谷の底部を概ね河川に沿って走る。

また、氷ノ山は、中国地方では大山に次ぐ高峰で、ゆるやかな尾根や深く急な谷など変化に富んだ地形による景観を見せるとともに、ブナの自然林やキャラボク群落、多様な高山性植物が見られ、天然記念物のイヌワシやヤマネをはじめ、さまざまな動物が生息している。春の新緑、秋の紅葉、冬の樹氷と景観に優れ、四季を通じて多くの人々が、国道482号を通過して訪れる。

② 歴史・文化

新因幡ライン沿線では、宿場町として栄えた若桜宿や安井宿の伝統的町並みや、駅舎や橋梁等が昭和5年の開業当時の姿をとどめながら今なお現役で地域の足として運行し続けている若桜鉄道など、多くの有形・無形の遺産や文化財が点在し、歴史的・文化的景観として地域に親しまれている。

若桜町若桜宿、若桜鬼ヶ城(国指定史跡)

若桜宿は、中世期に鶴尾山(標高452m)に鬼ヶ城が築かれて以来、城下町・宿場町として整備され、交通の要路・物資の集散地として発展してきた。播磨・但馬国へと通じる街道の結節点に位置しており、因幡地方にとって重要な拠点であった。明治期の防火対策に基づき成立した土蔵群が立ち並ぶ「蔵通り」や当時のアーケードとして活用された庇の残る「仮屋通り」等がある。

八頭町安井宿

宿内にはかつての因幡街道沿いに赤瓦の家並みが続き、宿場町の風情を残している。宿の中ほどには、かつての郵便局や法務局であった近代建築を見ることができる。付近の愛宕（あたご）神社の石段下には「右 いせ道／左 やま道」と印された石道標が残り、街道の歴史を偲ぶことができる。また、伊蘇乃佐只（いそのさき）神社の麒麟獅子舞（町指定無形民俗文化財）は春の風物詩となっている。

若桜鉄道

八頭町郡家駅から若桜町若桜駅までの19.2kmを結ぶ第3セクター鉄道である若桜鉄道は、昭和5年12月に旧国鉄若桜線として全線開通してから90年の歴史があり、昭和の趣が色濃く残る駅舎や橋梁などの鉄道施設が、平成20年に国の有形文化財に登録され、貴重な地域の歴史的景観となっている。また、工業デザイナー水戸岡鋭治氏が手掛けた観光列車「昭和号」「八頭号」「若桜号」が走り、木造のレトロな駅舎やどこか懐かしい昭和の原風景が残る沿線の旅を演出し、車窓からは、春は桜、夏はのどかな田園風景、秋はオレンジ色に染まる花御所柿畑、冬は雪景色といった沿線の四季折々に異なった眺望の広がりを楽しめる。

新因幡ライン沿線のその他の文化財等

区分	名称	所在地
国指定重要文化財	不動院岩屋堂	若桜町岩屋堂
国登録有形文化財	若桜橋	若桜町若桜・浅井
町指定無形民俗文化財	若桜神社大祭	若桜町若桜
町指定有形文化財	伊勢道の道標	若桜町若桜
国指定重要文化財	矢部家住宅	八頭町用呂
県指定天然記念物	西御門の大イチョウ	八頭町西御門
町指定文化財（史跡）	安藤井出（農業用水路）	八頭町安井宿～郡家

③ 生活・交通

新因幡ラインの若桜町及び八頭町の区間は、県都鳥取市と関西圏や山陽圏を繋ぐ位置にあり住民生活は、購買や通勤・通学、製造業・農林業等における物流、観光業等、様々な場面で両方面との関わりが深い。また、県外観光客の経由地でもあり、移動中や立ち寄り先で観光客が目にする景観は、リピーターの獲得、SNSによる拡散やさらなる誘客を左右する重要な要素であるといえる。

播磨方面とは、新因幡ライン（国道29号）により戸倉峠を越え往来されるが、平成25年3月の鳥取自動車道全線開通によりその交通量は激減した。本行動計画による取組みにより、観光客の増加に繋げていくことが求められている。

但馬方面は、国道482号の兵庫県香美町小代区～若桜町つく米間が平成16年台風23号による土砂崩れにより通行不能区間となっていたが、令和元年5月、約15年ぶりに開通し往来可能になっている。これにより若桜町と香美町が結ばれ、豊かな観光資源を持つ両町の連携強化により観光の発展が期待されている。

また、若桜鉄道が郡家駅（八頭町郡家）でJR因美線と連結しており、若桜～鳥取間、若桜～智頭～山陽・関西圏を結んでいる。若桜鉄道は住民の通勤・通学等の足として利用されるとともに、観光振興にも活用されており、その車窓からの景観や若桜鉄道が景観そのものとして捉えられていることについては、前述のとおりである。

④ 産業

新因幡ライン沿線の景観を特徴付ける主要な産業として、農林業と観光業が挙げられる。

支流を含む八東川流域では、河川に沿って帯状に耕作が行われ、農山村景観を形成している。なかでも標高800mの山地を切り開かれた形状が日本の棚田百選に選ばれた若桜町の「つく米の棚田」（標高の高さは全国の棚田の中でもトップクラス）や八頭町の「花御所柿」をはじめとする柿、梨、りんごなどの果樹畑は美しく、新因幡ラインの景観の特色の一つとなっている。八頭町では、平成29年9月に「はっとうフルーツ観光園」をオープンするなど、これらフルーツを活かした観光振興にも取り組んでいる。しかし、一方で農林業従事者の減少は顕著であり、これに伴う耕作放棄地の発生等による景観の悪化も懸念されているところである。

若桜町では、古くから林業が行われ「若桜杉」の生産で栄えたが、外材の輸入に押され林業は斜陽化し、産業の多角化の必要性から、昭和30年代後半から氷ノ山の開発が始まった。わかさ氷ノ山スキー場の入込客数は年間3万人を超えていたが、近年、雪不足や新型コロナウイルス感染症の影響により入込客数が大きく落ち込んだ。雪に覆われたゲレンデや山々の景観の素晴らしさはいまでもなく、オフシーズンのゲレンデも、草花や山の緑が美しい。「氷ノ山自然ふれあいの里」は、さらなる誘客のポテンシャルを秘めており、年間を通じた観光振興が持続可能な発展への課題となっている。

（2）近年の取組み

1) 日本風景街道への登録

国道29号沿線地域において、平成26年より国土交通省の日本風景街道への登録を目指す取組みが始まった。平成28年2月には、地域資源を活用し、県境を越えた景観の保全、交流人口の増加や地域の活性化を図ることを目的とし、民間団体で構成する「国道29号沿線広域協働活動実行委員会」（現：R29新因幡ライン協議会）が設立され、同委員会により日本風景街道への登録申請がなされた。そして、平成28年3月10日、兵庫県宍粟市（山崎IC）から鳥取市（鳥取城跡）までの国道29号（約90km）及び若桜町・八頭町内の国道482号を中心とした地域が「新因幡ライン～ふるさとに^{ふく}会^くう幸福（29）ロード～」として、全国138番目の日本風景街道に登録された。

日本風景街道登録後も、R29新因幡ライン協議会と、沿線自治体（鳥取県、兵庫県、鳥取市、八頭町、若桜町、宍粟市）及び各道路管理者によるパートナーシップを構成し、イベントの開催、フットパスの推進、清掃活動、ガードレールの塗替えや新因幡ラインの周知など様々な取組みを行っている。

2) 若桜鉄道のレトロ化

若桜鉄道、若桜町及び八頭町において、減少を続ける乗客数の下げ止まりと安定した収入確保を目指し、町外からの利用者呼び込むための取組みとして、平成29年度より4両ある車両のうち、昭和62年から運行を続けてきた3両の車両の観光列車化が始まり、工業デザイナーの水戸岡鋭治氏が手掛けた木材をふんだんに取り入れたレトロ調の観光列車「昭和号」が平成30年3月に運行が開始された。一方で、旧国鉄若桜線が開業した昭和5年当時の姿を現在もとどめ、平成20年には国の登録有形文化財に登録された昭和レトロの趣が残る駅舎においては、ポスターや掲示板、駅舎出入口前の自動販売機等が景観を損ねていた。そこで、新たに生まれ変わった車両と駅舎とのトータルデザインによる観光資源として磨き上げる取組みとして、「駅舎再生プロジェクト」を策定し、不要なものの撤去や色彩の統一、内外壁の老朽箇所^{箇所}の修繕を行うなど、駅舎のレトロ化に取り組んでいる。

3) 若桜宿の重要伝統的建造物群保存地区選定

若桜宿には、本通り・蔵通り沿いを中心に明治から昭和30年代にかけての伝統的な建造物とその周辺環境が良好な状態で残されている。しかし、少子高齢化や過疎化に伴い空き家や空き地が増加しており、若桜らしい町並みが失われつつあった。

国の「重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）」の選定に取り組むことが、若桜らしい町並みを残しながら住みやすい住環境と安心・安全で賑わいのあるまちづくりにつながると考え、平成27年度から2年をかけて伝統的建造物群保存対策調査を実施し、地区住民への説明会などを通じて合意形成を図りながら、国選定に向けた活動に取り組んできた。こうした取り組みの成果が実を結び、令和3年5月21日に国の文化審議会は若桜町若桜伝統的建造物群保存地区を国重要伝統的建造物群保存地区に選定するよう文部科学省に答申した。

(3) 課題

新因幡ライン沿線には、景観上好ましくない屋外広告物や景観を阻害している建築物・工作物等が、行政が設置したものも含め数多く存在しており、個々の景観資源をつなぐルート全体の印象として良好な景観が形成されているとはいえ、観光振興などに活かすことができていない状況にある。

また、一部の住民・団体等が緑化・美化活動等に取り組まれているが、モチベーションの維持や、活動財源、参加者の確保に課題があり、活動の継続が難しい状況にある。

(4) 今後の取り組みの考え方

1) 景観形成の方針

新因幡ラインの景観特性を活かし、さらに磨き上げていくためには、これらの美しい景観資源への配慮が必要な要素を「整理」し、次世代に残していくため「保全」し、さらには、風景を楽しむ場所・人が集う空間を整備することにより、新たな景観とにぎわいを「創出」していくことが必要である。これら3つの観点から行動計画を定め、取り組んでいくこととする。

新因幡ラインの景観形成の方針

整理



景観配慮が必要な要素を整理

景観診断により景観への配慮が必要な要素を抽出し、除却や修繕、改修を行う。

保全



景観資源の保全

視対象となる景観資源を抽出し保全・活用に取り組む。

創出



新たな景観とにぎわいの創出

景観を楽しむ場所・人が集う空間を整備(ビューポイント・滞留拠点の整備)する。

2) 景観配慮が必要な要素の抽出

人が見たいものを遮り又はそのものの自体の色彩や経年劣化等により、景観を損なっている屋外広告物や建築物・工作物等を客観的に抽出するため、新因幡ライン沿線の景観診断を、堀繁氏の御指導のもと関係民間団体等にも参加いただき、ワークショップ形式で実施した。これにより抽出された物件等に対し、どのような対応が可能か行動計画策定委員会で検討を行った。

① 景観診断の実施

日 時：令和2年9月26日（土）

① 講演「景観形成により地域の魅力づくり」午後1時から2時30分まで

② 景観診断ワークショップ 午後3時から5時まで

場 所：八頭町中央公民館（八頭町宮谷）

講 師：堀 繁氏（(一社) まちの魅力づくり研究室理事 東京大学名誉教授）

参加者：若桜町、八頭町、県及び国土交通省職員、鳥取市職員、県景観アドバイザー
新因幡ライン関係まちづくり団体、観光関係者、一般参加者 計20名
（講演は、このほか住民、景観まちづくり団体等 計60名）

参加者は、景観診断（景観の評価）を行うワークショップに先立ち、景観まちづくりをテーマとした堀繁氏の講演を聴き、「景観とはなにか」「人は何を評価するのか」といった景観の評価をする上で、重要な視点を学んだ。

続いて、参加者は、5グループに分かれ、新因幡ライン沿線の代表的な12地点について、景観診断シートを用いて各グループで議論・評価を行った。地点ごとに各グループの代表者が発表を行い、評価の観点を共有した。



(景観診断シート)



② 景観診断の結果

各グループの評価の一部を以下に掲載する。各地点共通して、屋外広告物や電線・電柱等により視界が遮られていることや、屋外広告物、建築物や道路附属物等の色彩が周囲に調和していないことなど景観への配慮が必要な要素が挙げられた。(全地点の評価を参考資料として末尾に添付する。)

新因幡ライン景観診断ワークショップ (R2.9.26)

	発表者	評価コメント
地点①		
 	A (小山)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑のある所では、ブラウンのガードパイプがなじんでいる。 ・ イオン、レッドバロンの看板が一番気になる。折り合いをつけながら、どう変えられるか。 ・ 青い屋根が目立つ。 ・ 耕作放棄地が目立つ。
	B (空崎)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここにこの広告があるのか。 ・ 青い屋根が目立つ。 ・ 道路脇の草が多い。草刈りをした方がいい。 ・ ミラーは必要か。 ・ ガードレールの色がおしゃれな方がいい。八頭ブラウンやうぐいす色。 ・ 照明柱の色を変えた方がいい。
	C (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看板が派手。 ・ 青い屋根は塗り替えた方がいい。 ・ 草刈りをした方がいい。
地点②		
 	A (宮川)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤・黄・青の看板。周囲の山や空の色にあったものを色彩的に分析し、明度や彩度を低く調和のとれたまとまりのある看板を目指してほしい。
	B (福本)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電線がごちゃごちゃしており、地中化を考えた方がいい。 ・ 鉄塔の位置を道路から離すか、色を調和したものにした方がいい。 ・ ガードレール、ガードパイプを風景に調和した色にした方がいい。
	C (山達)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電線が多すぎる。 ・ 看板、情報量が多すぎる。 ・ のぼり旗は必要なのか。
	発表者 以外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路案内標識と看板の情報がかぶっている。 ・ 看板はレトロ化してはどうか。
地点③		
 	A (白岩)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガードパイプは、もう少し薄い色の方がいいのではないか。 ・ この場所にこの看板の効果が疑問。
	B (梅実)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 草で看板が見えていない。草刈りをした方がいい。 ・ そもそもこの看板があるのか。 ・ 山や川が見えた方がいい。
	C (佐野)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空と緑の対比がいいので、電線は埋めた方がいい。 ・ ガードパイプの茶色が濃い、八頭ブラウンは活かさないといけなからい。 ・ 桜桜鉄道や川が見えるように草刈りをした方がいい。
発表者 以外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看板の字が多すぎて読めない。 	
地点④		
 	A (高市)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看板が派手、山の稜線を阻害している。 ・ ガードレールは景観になじむ色にした方がいい。
	B (春名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看板が古く、上の女性はいらぬ(用呂)。八頭町らしい派手な看板(安井宿)。 ・ 桜桜鉄道が見えるように草刈りをした方がいい。 ・ ガードレールを工夫して川が見えるようにすると日本の原風景らしくなる。 ・ 電柱、ポール、街灯がめざわり。
	C (盛本)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看板はいらぬ。 ・ 雑草を刈った方がいい。 ・ 川の景色がいいところ。ガードレールの工夫がほしい。

③ 行動計画策定委員会における検討

景観診断により抽出された景観配慮が必要な要素を整理し、行動計画策定委員会（令和2年11月20日開催）において、対応方針の検討を行った。

沿線全体に共通なものとして整理した景観配慮が必要な要素と対応方針

要素	対応方針
公共広告物	各管理者で継続設置の必要性を検討し、不要と判断したものは撤去する。 新設、改修等については、鳥取県景観計画に定める景観形成重点区域の行為基準を適用すること検討する。
民間広告物 民間建築物	公共広告物と同様の基準に合致するよう誘導する。
道路附属物 (ガードレール等)	ガードレールの色は更新時等にダークブラウンに統一していく。また、住民・団体等のワークショップによるガードレールの塗装を推進する。
除草 植栽管理	予算上の制約や、費用対効果の観点から重点的に実施する区間を検討する。また、住民・団体等による除草、植栽管理を推進する。
バス待合所	町又は道路管理者が設置のものは、地域住民の合意を得て撤去又は周囲と調和するよう改修・建替を検討する。民間設置のものも周囲と調和するよう改修等を誘導する。
電線・電柱 鉄塔	滞留拠点、ビューポイント等、重点的に景観整備に取り組む部分を選定した上で、中国電力等に無電柱化について要望していく。
柿畑のネット	農家及び農協に対し、黒又は茶系色のネットへ交換等を行うよう誘導する。
耕作放棄地	所有者、住民・団体等による景観作物の栽培や耕作の再開等を推進する。

3) 景観資源、ビューポイント・滞留拠点の選定

行動計画策定委員会において、景観資源等をリストアップし（下表）、その中でも優先して保全・活用や整備を検討していくものとして本行動計画に掲げるものを選定した。

景観資源については、歴史的建築物や町並みの保全、農山村田園風景の保全及び若桜鉄道施設の活用等の観点から、また、ビューポイント・滞留拠点については、景観資源を活用した観光振興等の観点から選定を行った。（下表太枠）

また、本行動計画に掲げる景観資源の保全・活用策やビューポイント・滞留拠点の整備の方針については、住民や関係民間団体等が参加するワークショップで得られた様々な意見、アイデア等を踏まえて検討を行った。

<景観資源>

No	名称	所在地、地域・地区	概要
1	若桜鉄道 各駅舎・施設	若桜町若桜～八頭町	登録有形文化財、若桜駅、隼駅、安部駅等
2	若桜鬼ヶ城跡	若桜町三倉	国指定史跡
3	若桜橋	若桜町浅井	S9年竣工、土木学会選奨土木遺産、登録有形文化財
4	若桜宿（仮屋通り・蔵通り）	若桜町若桜	若桜宿の町並み
5	千石岩（せんごくいわ）	若桜町赤松	
6	棚田	若桜町つく米	日本の棚田100選
7	氷ノ山	若桜町つく米	
8	遠見山（とおけんざん）	八頭町八東地域	八東地域の自然風景（田園風景と遠見山）
9	富枝碎石場跡地	八頭町富枝	
10	徳丸ドンド	八頭町徳丸	八東川の河川内にある弧を描くような滝形状の地形
11	安井宿	八頭町安井宿	赤瓦屋根の町並み
12	花御所柿の柿畑	八頭町大御門地区	オレンジ色に映えた花御所柿畑の景色
13	おおいちょう	八頭町西御門	11月中旬から下旬が見頃
14	日下部土手の桜並木	八頭町日下部	八東川沿いの桜並木

<ビューポイント・滞留拠点>

No	区分		名称 (ある場合)	所在地 地域・地区等	視対象 ビューポイントの場合
	ビュー ポイント	滞留 拠点			
1	○	○	若桜鉄道 各駅舎・施設等	若桜町～八頭町	若桜鉄道
2	○	○	道の駅若桜「桜ん坊」	若桜町若桜	鬼ヶ城跡、若桜駅
3	○	○	氷ノ山自然ふれあいの里	若桜町つく米	棚田、氷ノ山などの山なみ
4	○	○	道の駅はっとう	八頭町徳丸	向かいの田園風景、遠見山
5	○	○	徳丸親水公園	八頭町徳丸	自然と若鉄車両の風景 徳丸ドンド、若桜鉄道第二八東川橋梁
6	○	○	物産館みかど	八頭町大門	近隣の柿畑
7	○		花御所柿の柿畑	八頭町大御門地区	オレンジ色に映えた花御所柿畑の景色
8	○		日下部土手の桜並木	八頭町日下部	八東川沿いの桜並木

① ワークショップの実施

日 時：令和3年4月30日（金）

① 講演「地域活性化のための滞留拠点・ビューポイント・景観資源の活用法」
午後1時から2時20分まで

② ワークショップ「滞留拠点・ビューポイント・景観資源の活用を考える」
午後2時30分から4時30分まで

場 所：隼Lab.（ラボ）体育館（八頭町見槻中）

講 師：堀 繁氏（オンライン）

参加者：若桜町、八頭町、県及び国土交通省職員、県景観アドバイザー

観光関係者、柿農家、地域おこし協力隊等 計24名（講演 計39名）

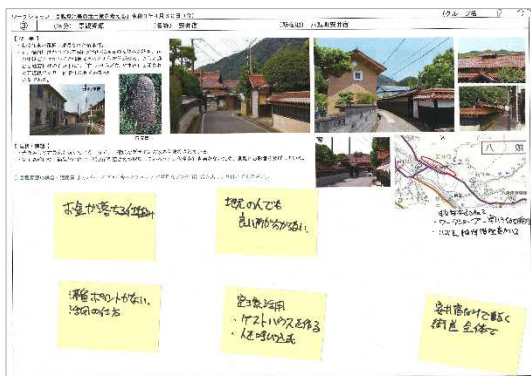
参加者は、まず堀繁氏の講演を聴き、地域の活性化に効果的な整備手法や景観資源の活用例など、ワークショップで景観資源の保全・活用策等を考えるために必要な観点を学んだ。その後、6つのグループに分かれ、箇所別シートを用いて景観資源の保全・活用策やビューポイント・滞留拠点の整備のアイデア出しを行った。景観資源5箇所、ビューポイント・滞留拠点5箇所の計10箇所について、それぞれ活発な議論が行われ、様々な意見やアイデアを得ることができた。



② ワークショップにおける意見・アイデア等

ワークショップで得られた意見・アイデアの一部を次頁に掲載する。（使用した箇所別シート及び全箇所の意見・アイデアを参考資料として末尾に添付する。）

（箇所別シート）



③ 箇所ごとの具体策の検討

今後、個々の整備にあたっては、今回得られた意見・アイデア等を踏まえつつ、さらに専門家や住民の意見を聴きながら丁寧な検討を行い実行していくこととする。住民の意向を反映する手法としては、住民参加型のワークショップで検討することなどが考えられる。

新因幡ライン景観ワークショップ「滞留拠点・ビューポイント・景観資源の活用を考える」(R3.4.30)

使用した箇所別シート	グループ	保全・整備、活用策
景観資源①(若桜鉄道 各駅舎・施設)		
	A 発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隼駅はバイクとの連携が必要ではないか。バイク型のベンチを設置したり、駅をバイクとのつながりを持たせた外観にしてPRする等。 ・ 隼駅はバイクの聖地として、撮影スポットや休憩スペースを設けてはどうか。 ・ 若桜駅にも桜があるので、桜と駅が見渡せる場所にベンチを設置してはどうか。 ・ 若桜駅の新たにできたカフェで、スイーツを提供して若い女性客の取り込みを図ってはどうか。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若桜駅、若桜宿、道の駅について、相互に人が流れる仕組みづくりが必要。
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若桜駅はどこから見るのがよいのか。駐車場から見やすくすることはできないか。
	D 補足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若桜鉄道を訪れる人は登録文化財である各駅舎の写真を撮りたい。汽車に乗ってしまうと、各駅舎を撮るのは難しい。レンタカー、レンタサイクル、各駅を回るためのシステムが必要。 ・ 1時間に1本の汽車に乗って来て帰って終わりでは、滞留時間が確保できず、お金が落ちない。 ・ 因幡船岡駅、駅のホームや車両から見下ろせる田んぼがあり田んぼアートを見て楽しめるようにしてはどうか。(カントリーエレベーター南側) ・ 鯉のぼりを各駅で飾ろうとしているが、すべて徳丸ドンドに掲げて、車内からの景観を楽しんでもらうのもよいのではないか。汽車に乗っている人が楽しめる工夫をすれば、旅客が増えるのではないか。 ・ 隼駅、一人旅のライダーも多く、自分を入れた写真が取りにくい。カメラ台で、ライダーをおもてなししてはどうか。浦富海岸などにある。
	E	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若桜駅を眺める場所がない。 ・ お金の落ちる仕組みづくりが必要。 ・ P R等に沿線の桜スポットが活用できないか。
	F 補足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町外の方、県外の方向けに、ビューポイントマップがあるといいのではないか。 ・ 国道から各駅舎への入口が分かりづらく、何か表示がほしい。 ・ 各駅を使ったイベントを開催してはどうか。 ・ 若桜駅内の桜の周辺にベンチを設置してはどうか。
	堀先生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の立場になって丁寧に考えることが大事。わずかな時間でも駅に寄った証に写真が取れるような工夫等。 ・ サービス一辺倒では長続きしない。客が気持ちよくお金を落とすこととセットで考える必要あり。
温子氏	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道愛好家はおしなべて鉄道以外にお金を使わない。鉄道愛好家やライダーのためだけという具合に初めから間口を狭くするのではなく、いろんな方をターゲットにすることを考えたほうがいい。 	
景観資源②(若桜宿(仮屋通り・蔵通り))		
	A 発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ マップはあるようだが、マップを受け取れる場所をわかりやすくPRすべき。 ・ 貴重な建物、まち並みがあるのでもっとアピールすべき。 ・ 水路も見所の一つ、P Rポイントではないか。 ・ 宿泊施設を整備して滞留時間を確保してはどうか。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ まち巡りの順序、どう歩いたら楽しいかが分かるといいのではないか。 ・ 水路の水を引き込んで鯉を泳がせ、それを鑑賞できるようにしてはどうか。
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家の活用を検討する必要がある。 ・ 仮屋通り、蔵通りにベンチを置いてはどうか。 ・ 仮屋通りを石畳で整備してはどうか。
	D 補足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蔵通りの蔵の中をみるができない。ベンチや滞留ポイントない。寺もありおもしろそうだが、入りづらい雰囲気、通り抜けてしまう。蔵を開放して見てもらう等の工夫が必要。 ・ 仮屋通り、建て替えが進んでおり、仮屋がとぎれとぎれになっている。復元して、冬の楽しみ方として、仮屋を体験できるようにしてはどうか。 ・ 電柱が目立っている。
	E	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観条例を設けて規制してはどうか。
	F	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベンチを置いてはどうか。 ・ レンタサイクルがあるようだが利用されていない。 ・ 電線を地中化してはどうか。
	堀先生	<p>(若桜町から)</p> <p>仮屋に設置しているベンチの目の前が水路で稀に落ちる方がいる。景観への配慮と安全面の配慮の両立はどのようにしたらよいか。</p> <p>⇒人を丁寧にでもなすメッセージが伝わると評価される。落ちてもかまわないというメッセージが出ているとマイナス。落ちないように工夫しているというメッセージが伝わることが基本。例えばベンチの前は水路にふたをかける。地域の人が来訪者になったつもりで歩いてみて、危ないところは工夫する丁寧さが必要。</p>
温子氏	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軒を復元するだけでなく、集客を積極的に考えていくことがいいのではないか。 	

4) 重点的に景観形成に取り組む区間

新因幡ライン沿線は、日本の原風景と呼ぶにふさわしい景観が広がる区間ばかりではなく店舗等が立ち並び経済活動が比較的盛んな街なかの区間も存在している。本行動計画では、前者の景観を保全し、活用していくことを主な目的としており、効果的に景観形成に取り組んでいくため、沿線周辺に多くの景観資源等を有し、農山村や田園・柿畑等の風景が広がる国道 29 号八頭町西御門から若桜町浅井の区間及び四季折々の美しい渓谷景観が特徴の国道 482 号若桜町浅井から同町つく米までの区間（当該区間を「3 行動計画」において「景観形成重点区間」という。）について、当該区間から視認できる範囲を対象に重点的に景観形成に取り組んでいくこととする。

花御所柿の柿畑



安井宿



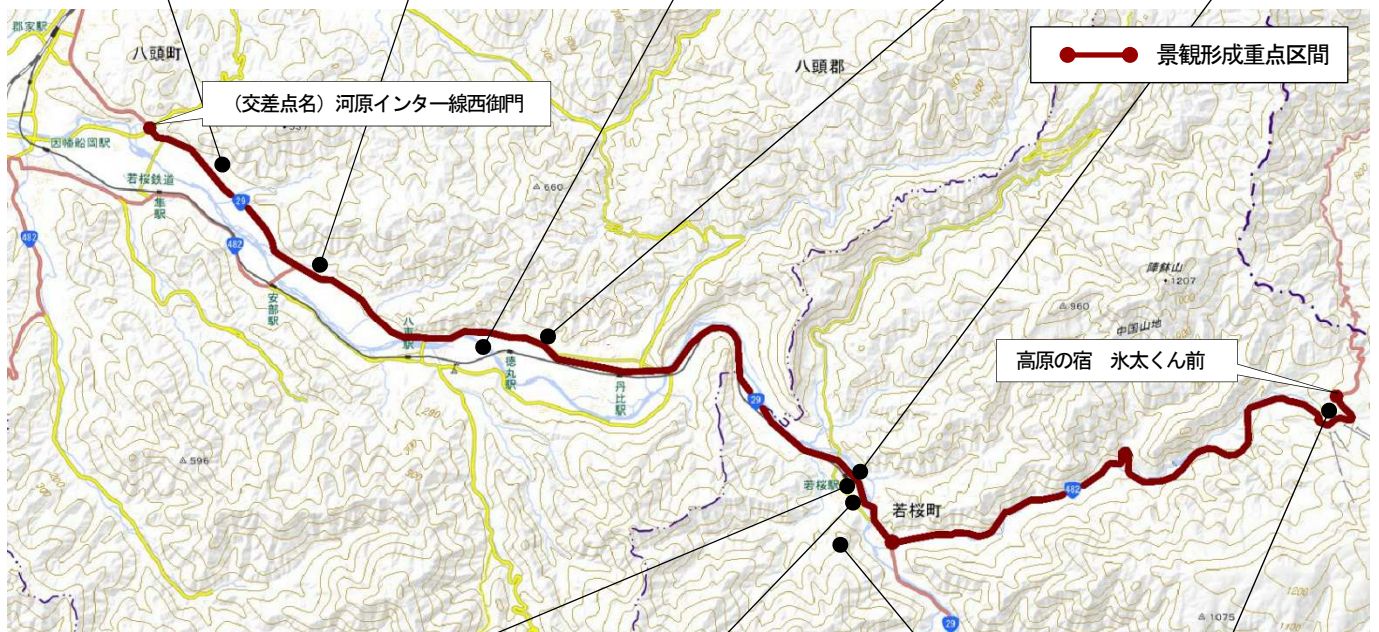
徳丸ドンド



道の駅はつとう



道の駅若桜「桜ん坊」



若桜鉄道
郡家駅～若桜駅



若桜駅



若桜宿



若桜鬼ヶ城跡



氷ノ山ふれあいの里
(つくよね棚田)